

花ちゃん・オーフ・モンタ博士のわくわくドド相立てくく3

国立市立国立第七小学校

平成27年6月3日 NO.26 (226)



花ちゃん 「キャー！ カマキリが何か食べてる！」

オーフ 「驚くことはないよ。花ちゃん。食べたり食べられたりするのが、自然の姿なんだよ。」

モンタ博士 「そのとおりだね。この写真は、カマキリがコオロギを食べているところさ。」

オーフ 「でも、モンタ博士。この写真おかしいですね。今ごろこんな大きなカマキリはいないと思いますが。」

モンタ博士 「そのとおりだね。この写真は秋にとったものさ。」

オーフ 「それにしても迫力ある写真ですね。」

モンタ博士 「そうだろう。カマキリにコオロギを見せたら、すごい速さでカマをのばして、コオロギを食べ始めたんだよ。」

花ちゃん 「すごい食欲ですね。」

モンタ博士 「ところで、このカマキリはオスかメスか、どっちかわかるかな。」

花ちゃん 「この写真だけで、オスかメスかがわかるのですか。」

オー君 「これはメスだね。おなかが^{ふと}太ってるね。」

モンタ博士 「そのとおりだね。さすがオー君、よく知^しっているね。この大きなおなかには、^{おお}卵^{たまご}が入っていると思うんだ。だから、たく^{はい}さんの栄養^{えいよう}が必要なんだよ！」

花ちゃん 「よく見ると、^み頭^{あたま}からかじってるわ。」

オー君 「もしかしたら、カマキリは捕まえた昆虫^{こんちゅう}を食べるときは頭から食べるのかもしけないね？^{あき}秋^{しら}になったら、いろいろと調べてみようね！花ちゃん。」

モンタ博士 「おもしろいことに気がついたね！カマキリがどうやってえさを食べるか、^{たの}観察^{かんさつ}を続ければ、いろいろなことがわかって楽しそうだね。」

オー君 「あのね、花ちゃん。カマキリは共食^{ともぐ}いすることもあるけど、^{とき}時には、メスがオスを^{たの}食べてしまうこともあるんだよ。」

花ちゃん 「へえー！それはびっくり仰天^{ぎょうてん}ですね。」

モンタ博士 「だけど、必ず食べるというわけじゃないんだ、秋^{あき}になりえさが少^{すく}なくなると、卵^{たまご}を産^うむためにオスも食べてしまうらしんだ！」

オー君 「卵^{たまご}を産^うむために必死^{ひっし}なんですね。」

モンタ博士 「そうだね。自然^{しぜん}の世界^{せかい}というのは厳しいものなんだね。」

カマキリの天敵

カマキリの卵は丈夫な卵のうで守られているので、絶対に安全かというとそうでもないようです。昆虫界のギャングとか、王様とか言われているカマキリにも天敵はいるのです。

その代表がカマキリタマゴカツオブシムシやオナガアシブトコバチで、卵のうに寄生して卵を食べてします。

カマキリタマゴカツオブシムシの成虫は、卵のうの穴にあなを空けて中に入り、カマキリの卵に自分の卵を産み付けます。その卵からかえったカマキリタマゴカツオブシムシの幼虫は、カマキリの卵を食べて成長するのです。また、オナガアシブトコバチは、卵のうの上からおしりにある長い産卵管を差し込み（これらの仲間を寄生蜂といい、とても興味深い生活環で面白い世界です。そのうち国立てくつお知らせします。）、中のカマキリの卵に自分の卵を産み付けます。やがて、卵からかえったオナガアシブトコバチの幼虫は、同じようにカマキリの卵を食べて大きくなります。

成虫にも天敵はいます。コウモリや鳥などに襲われたりします。また、ハリガネムシというちょっと変わった動物にもよくやられます。ハリガネムシというのは、昆虫ではなく、回虫などの仲間で線形動物と言います。これがまた、針金そっくりで、変な形で面白い生活環をしている生き物です。

